



しろうさぎ

S H I R O U S A G I



TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください



Contents

特集 Special Issue

『赤ちゃんの成長を出産前から退院後まで、
切れ目なく見守っています!』

- 📎 チーム医療でお母さんも赤ちゃんも元気に! 周産期母子医療センター 金崎 春彦 センター長
- 📎 バランス良く、規則正しい妊娠生活を送って出産に備えましょう
周産期母子医療センター 皆本 敏子 副センター長(産科婦人科)
- 📎 安心安全を第一に、赤ちゃんの成長をサポートします
周産期母子医療センター 柴田 直昭 副センター長(小児科)
- 📎 気軽に相談して安心して出産しましょう 産科婦人科外来 山本 雅子 看護師長(助産師)

- *プロジェクトM
- *在宅医療を支えます
~在宅医療従事者のための
フィジカルアセスメント研修~
- *私のここだけの話
- *留学生の国自慢
- *イベントなどのお知らせ
- *ニュース&トピックス

2017
年頭の
ごあいさつ



「周産期母子医療センター NICUにて」

病院長 井川 幹夫

明けましておめでとうございます。今年は酉年とりですね。とり(鳥)といえば、斐川平野で野鳥をよく見かけます。私は広島県出身ですが、広島には意外と平野が少なく、斐川平野の開けた景色が大好きです。

今号の特集で取り上げていますが、周産期母子医療センターの設置に合わせてNICUなどの周産期医療部門を同一フロアに集約し、ハイリスク分娩にも対応できる高度な周産期医療を提供しています。また、高度外傷センターを発足させて、交通事故などで重い外傷を負った患者さんを迅速に救命する体制を整えました。今年7月末までには高度外傷センター棟を開設予定で、さらに高度で専門的な外傷治療を行っていきます。ロボット手術システム「ダ・ヴィンチ」では、腹腔鏡下腎部分切除術を保険適用後に県内で初めて実施しました。今後、他の臓器にもダ・ヴィンチ手術を拡大していきます。

病院のアメニティーの側面として、病院敷地内の清掃活動や院内ボランティアなど、当院は地域の方々にさまざまな形でお世話になっております。市民ギャラリーでは、毎回、趣向を凝らした素晴らしい作品を展示しています。ぜひ、実物をご覧ください。また、患者さんのアンケート、地域の有識者で構成される「患者さんの視点に立った医療を考える会」から頂いた貴重なご意見を病院運営の改善に役立てています。

本年も、患者さんやご家族のご意見をお聞きしながら、患者さん中心の医療を提供し、「地域で愛される病院ナンバーワン」を目指して、病院職員一同、日々努力してまいります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

「赤ちゃんの成長を出産前から退院後まで、切れ目なく見守っています！」

周産期母子医療センターは、昨年8月にNICU(新生児集中治療室)、GCU(新生児回復治療室)が移転・改築され、分娩室や手術室と同一フロアになりました。増加する分娩数に対応するため、分娩室も3つに増えています。そこで、詳しい様子についてお話を伺いました。

チーム医療でお母さんも赤ちゃんも元気に！



周産期母子医療センター かなさき はるひこ 金崎 春彦 センター長

Q 周産期母子医療センターとは、どのようなところですか？

A 周産期とは妊娠22週から生後1週未満までの時期のことをいいますが、この期間は母児ともに異常を生じやすく、突発的な緊急事態に備える必要があります。周産期母子医療センターはリスクのある妊婦さんが無事出産できるように厳重に管理し、小さく産まれた赤ちゃんや病気を持った赤ちゃんが元気に退院できるように治療・管理を行う診療施設です。妊婦さんは産科の医師が管理し、生まれた赤ちゃんはその状態に応じてNICU、GCUで小児科の医師が管理します。手術が必要な赤ちゃんに対しては小児外科及び小児血管外科の医師が治療を行います。

周産期母子医療センターでは出生前から出産後までチーム医療を行い、母児ともに元気に退院されることを目指しています。

Q 今後の展望は？

A お産はすべてが安全なものではありません。リスクのある妊婦さんや出生前に赤ちゃんに異常が見つかった場合は設備の整った大きな病院で管理する必要があります。現在NICUは6床、GCUは9床で運用されていますが、最大で21床までの増床が可能です。増加するハイリスク妊娠に対応し、島根県内の全ての分娩・新生児に責任を持つつもりで頑張っていきます！



バランス良く、規則正しい妊娠生活を送って出産に備えましょう

周産期母子医療センター みなもと としこ 皆本 敏子 副センター長(産科婦人科)

Q 当院のお産の状況を教えてください。

A 当院での分娩数は年間約450件です。以前は制限があった無痛分娩を希望者全員に行えるようにしたり、里帰り分娩をしやすくしたり、当院で出産しやすい環境を整えることで分娩数が倍増しました。

大学病院ということもあり、通常の分娩に加えて、合併症妊娠や産科合併症、高齢出産などのハイリスク妊娠の妊婦さんも多く受診されます。そのようなハイリスク妊娠にも対応できる体制でお産に臨んでいますが、妊婦さんの健康が何より大切です。

Q 妊婦さんが健康を保つために、どのようなことを心がければよいでしょうか？

A 食事のバランス、適度な運動や休息を意識してみてください。身構えて特別なことをする必要はありません。食卓に野菜をもう1品追加してみたり、窓ふきや掃除などの家事を1つ1つ丁寧にやって体を動かしたりするだけでも良いです。それだけで立派な運動になりますよ。周りの人に優しくしたり、家族で楽しく過ごすことも大切です。

何気ない日常でも、バランス良く、規則正しい妊娠生活を送って出産に備えていきましょう！

安心安全を第一に、赤ちゃんの成長をサポートします



周産期母子医療センター

しばた なおあき
柴田 直昭 副センター長(小児科)

Q NICUとGCUでは、それぞれどのような治療をされていますか？

A NICUでは、早産、未熟児、心臓や消化器などに生まれつきの病気を持って生まれた赤ちゃんを治療しています。人工呼吸器や保育器など赤ちゃんに特化した医療機器を使って集中治療を行っています。必要に応じてNICU内で手術を行うこともあります。

GCUは、NICUで治療を受けたあとの赤ちゃん、帝王切開や低体重で生まれた赤ちゃんの成長をサポートし、おうちに帰る準備をする部屋です。お母さんと一緒に沐浴や授乳の練習をしたりしています。

室内は、「赤ちゃんにもお母さんにもやさしい空間」をコンセプトにしており、特にNICUでは赤ちゃんが

お母さんのお腹の中にいたときに近い環境にするため照明を暗めに設定するなどの配慮もしています。

Q すばり！新生児を診る医師の魅力とやりがいとは？

A 私は5年半前から当院のNICUで働いていますが、以前に私が診た子どもたちが年賀状で元気な様子を伝えてくれるのがとても嬉しいです。

また、生まれてすぐの赤ちゃんが生命力に満ち溢れていることを間近で感じられることも大きな魅力です。危機に直面している赤ちゃんの命を次世代につなげる役割を大切にしていきたいです。



気軽に相談して安心して出産しましょう

やまもと まさこ
産科婦人科外来 山本 雅子 看護師長(助産師)

Q 助産師は、どのように妊婦さんと関わっていますか？

A 外来診療と一緒に入り、出産前からお母さんと顔なじみになって気軽に相談できる関係を作ります。それから、妊娠中の過ごし方、出産に関する心構えや準備、出産後の子どもとのふれあいの大切さなどをアドバイスします。生まれてすぐの赤ちゃんは「第2の胎児期」と呼ばれていて、一生懸命お母さんにつながろうとしています。この時期の母子のふれあいは本当に大切です。

Q 「お祝い膳がすごい！」と聞きましたが？

A フランス料理のフルコースです！
出産はお母さんにとって本当に大きなイベン

トなので、心からお祝いしたいという思いでお出ししています。美味しいと評判ですよ。

Q 今までどれくらいの数の出産に立ち会われましたか？

A 私は1,000人以上の出産に立ち会ってきましたが、どの瞬間も特別なものです。赤ちゃんが生まれたときのお母さんの幸せそうな顔を見ると、なんともいえない幸福感に包まれますよ。

お産はいつ始まるかわからないという緊張感があり責任も大きいですが、お母さんやご家族が安心して出産に臨めるよう、努めています。



小児科特任教授 山口清次は、小児の障害発生予防のための新生児検査(マススクリーニング)の研究を長年行ってきた。頻度の少ない先天性代謝異常による障害の発症や重症化から救う方法を全国に広める活動をしてきたが、そこには、山あり谷ありのドラマがあった…

3 話 連 載

第1話

研究のきっかけは40年前のある出会いからだった。

「どうしたらよいのか…」

山口青年は悩んでいた。鉄欠乏性貧血が疑われて入院してきた子どもを受け持ったが、原因がどうしても分からない。1970年代、岐阜大学医学部を卒業してまもなく、岐阜市内の病院で勤務していたときのことだった。ある先輩医師からアドバイスをもらった。

「京大に良い先生がおるから、その先生に相談してみたらどうやね」。

山口青年は、京都大学血液内科の外林秀紀先生を訪ねた。そして、何回か通っているうち、思いもかけない病気の診断にたどり着いた。それは、「先天性悪性貧血」。当時はほとんど報告のない病気だった。

病気の原因がわかったとき、主治医の山口青年よりも血液内科の先生のほうが興奮していた。山口青年はキョトンとしていた。(めったにない病気よりも、患者数の多い病気を研究するほうが社会に貢献するんじゃないか)。内心そう思っていたからだ。

血液内科の先生は次のようなことを話した。「いいかい、山口くん。研究には2つの方法があるんだ。1つは、多くの患者を集めて分類して原因に迫る方法。もう1つは、珍しい病気の原因を徹底的に調べて、その原因物質が生体の中でどんな働きをしているかを明らかにする方法だ。稀少疾患の研究によって、多くの研究者が長年研究してもわからなかった生体の謎がいつか解決することがある。1つの珍しい病気の解明は、よくみる病気の新しい治療法の開発へとつながる。稀少疾患の究明は医学の大きな光だよ。」

ここから、稀少疾患の究明という新たな道が始まった。



研修医時代

次 回 予 告

「稀少疾患の究明は大切だと分かった。しかし、どう応用していけばよいのか。」

質量分析との格闘、プロの研究者の登場… 次回、山口青年の研究人生を大きく左右する壁が立ちほだかる。乞うご期待!



「在宅医療従事者のための フィジカルアセスメント研修」

カリの けんじ
クリニカルスキルアップセンター長 狩野賢二



クリニカルスキルアップセンターでは、在宅療養に従事する専門職の相互の連携強化を目的にフィジカルアセスメントの研修を行っています。フィジカルアセスメントとは身体評価のことで、脈拍数、呼吸数、血圧、呼吸音聴診、心音聴診、腹部聴診などを測定して患者さん・利用者さんの体調を判断します。また、緊急事態に対応するための心肺蘇生法、感染防御のための衛生的手洗手法、80歳代の高齢者を自分で体験できる「高齢者スーツ」を着用して様々な動きの確認なども行っています。研修に参加している職種は、島根県内のあらゆる施設から、看護師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、栄養士、介護福祉士などが受講しています。それぞれが専門職として専門知識を生かして、在宅医療従事者のチームワークを発揮するためにも、フィジカルアセスメントが共通言語に成りつつあると思います。今後もクリニカルスキルアップセンターとして在宅医療を支えるための研修を開催いたします。



私のここだけの話

「LIFE SAVING」

わたなべかつとし
看護部医療情報担当・副看護師長 渡邊克俊



今はこんな体型ですが、私にはトライアスリートだった過去があります。そしていつしかライフセービングに興味を持つようになりました。キララビーチで海の監視ボランティアを始めてから、干支が一回りしました。ビーチのゴミ拾いも大事な役目です。「あなたは、愛する人が目の前で溺れたら助けられますか?」これはライフセーバーの講習会でよく使われる言葉です。5kgの重りを両手に持った立ち泳ぎ10分間、当時は必死でしたが良い思い出です。

昨夏、キララで遊泳中に溺れ心肺停止になった方がいました。遊泳客と協力して心肺蘇生法を施し呼吸と心拍の再開後、救急隊へ引き継いだ経験があります。救急隊到着までにできることは全てできたのか自問自答しましたが、フルリカバーと聞き胸を撫で下ろしました。私の救命行為をそばで見ていた娘がどんな職業を選択するのか楽しみに、ビーチのゴミ拾いを続けて行こうと思います。



循環器内科
マイダルさん



今回はモンゴルからいらっしゃっているマイダルさんに母国について紹介していただきました。

皆さんのモンゴルのイメージは、「相撲が盛ん」でしょうか。モンゴルでは相撲だけでなく、乗馬レースも大変人気があります。最大のレースは「ナーダム」と呼ばれていて、毎年7月の祝日に開催されます。日本の競馬と違って走行距離が長く、30キロも走ります。150頭近くの馬が一斉に走るの、迫力もすごいですよ!ケンティ県の馬が速いのですが、その理由は、チンギス・ハーンが速い馬をケンティ県に集めたからだとか。

ナーダムの日にはモンゴルの伝統的な飲み物「馬乳酒」を飲みます。これは、お酒と馬のミルクを混ぜて作る飲み物で、シャンパンのような味がしますよ。



大迫力の乗馬レースを見ながら飲む馬乳酒、美味しそうですね♪(編集者)

イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座

島大病院には、専門知識を備えた、医師をはじめとする様々な職種の職員が医療・医事業務に携わっています。

本院に来院される患者さんや一般市民の方への少しばかりのサービス提供事業として、健康や医療に関するミニ講座を定期的に関催していくこととしました。

実施内容は下記のとおりです。



対象 患者さんほか一般市民 **場所** 外来1階 外来待合ホール
時間 11:00～11:30

回数	月日	担当	講師	テーマ
第151回	1月5日(木)	救命救急センター	仁科 雅良	救命救急センターはこんな部署です
第152回	1月11日(水)	認知症疾患医療センター	若槻 律子・黒田 陽子	「あら!さっきも言ったでしょ!」こんな時どうしたらいいでしょう?
第153回	1月19日(木)	乳腺・内分泌外科	百留 美樹	乳房再建について
第154回	1月26日(木)	光学医療診療部	柴垣 広太郎	内視鏡治療
第155回	2月2日(木)	検査部	兒玉 るみ	血液型はどうやって調べるの?
第156回	2月9日(木)	看護部	妹尾 尚美	副作用と上手につき合みましょう～通院で行なう抗がん薬治療について～
第157回	2月16日(木)	泌尿器科	安食 春輝	未定
第158回	2月23日(木)	耳鼻咽喉科	柴田 美智子	めまいについて
第159回	3月2日(木)	栄養治療室	端本 洋子	春野菜を食べよう
第160回	3月9日(木)	呼吸器外科	岸本 晃司	からだにやさしい手術
第161回	3月16日(木)	皮膚科	新原 寛之	島根県に多いリケッチア感染症
第162回	3月23日(木)	歯科口腔外科	辰巳 香澄	お口の病気シリーズ(5)
第163回	3月30日(木)	薬剤部	未定	未定

病院ボランティアコンサート 開催予定

1月20日(金)19時より

出雲ルビーズ

開催場所: 附属病院1階外来待合ホール



島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定 (出雲ケーブルビジョン)

平成29年1月放送 肝・胆・膵外科 西 健 助教
放送内容: 膵臓疾患特殊外来について

誰でも参加出来る糖尿病教室

場所: 外来中央診療棟3階「だんだん」

1月23日(月)15時～16時

参加費無料!
予約不要です☆

講演 1 誤解だらけ?
インスリン注射 ほんとの話
後藤 貴樹 薬剤師(糖尿病療養指導士)

講演 2 やせてるのに糖尿病!?
～糖尿病のいろいろな原因～
小川 典子 内科医師(糖尿病専門医)

●その他、無料血糖測定を行います。

がん・糖尿病・肝疾患など、長期療養が必要な患者さんの「働くこと」も支援します

「通院治療しながら働きたい」「病状・体力にあった仕事を見つけたい」「仕事復帰に不安がある」などの相談に、ハローワーク出雲の就職支援ナビゲーターと当院がん専門相談員が連携して相談会を開催しています。

相談会開催日時 毎週木曜日10:00～12:00

問い合わせ先 がん患者・家族サポートセンター(外来診療棟3F) 電話:0853-20-2518(平日8:30～17:00)

※がん患者・家族サポートセンターでは、がん専門相談員がさまざまな相談に対応しています。
お気軽にお尋ねください。



ニュース
NEWS & TOPICS
トピックス



島大病院 書籍のご紹介



第2弾 好評発売中!

病気・健康維持のはなしなど

48項目

島大病院・1年分の健康講座を
この1冊にまとめました。

島大病院 ちょっと気になる 健康講座2

Shimane University Hospital Lectures on Health

監修:島根大学医学部附属病院 発売:今井出版
A5判/並製本/154頁/オールカラー 定価:本体 926円+税



島根大学病院の
スタッフがわかり
やすく解説します。

第1弾も
一緒にどうぞ!



お近くの主要書店、インターネットでお買い求めいただけます。ご注文は 今井印刷株式会社 0859-28-5551

島大病院内で無料配布しています!

「病院食のレシピが知りたい」という
入院患者さんからの声を受けて、
1冊のレシピ本を作りました。

かんたん 第1弾 病院レシピ

Hospital Recipe

監修:島根大学医学部附属病院 栄養治療室
B5判/オールカラー 無料



14
レシピ!



編集後記

明けましておめでとうございます。

新年号では、周産期母子医療の様子について特集しました。

まさに表紙のイラストのように、関連部署のスタッフが一丸となって
赤ちゃんとお母さんの健康を支えています。

今回から新コーナーも始まりました!「プロジェクト
M」では、1人の人物にスポットライトを当てて、その人
の道なりを連載で紹介していきます。次回もぜひお読み
ください。

次号は4月発行予定です。

【編集者より】



島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

についてのお問い合わせ先



医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>